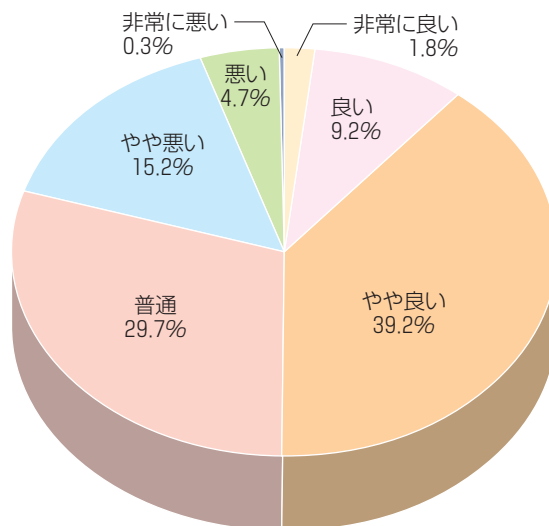


特別調査「平成18年の経営見通し」

(特別調査については、全地域調査依頼先600先からの有効回答のみを集計した調査結果となっています。)

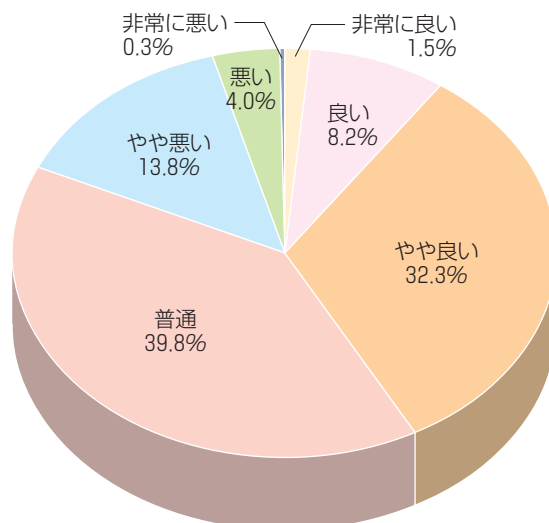
問1 平成18年の日本の景気をどのように見通していますか。

平成18年の日本の景気については、「非常に良い1.8%」、「良い9.2%」、「やや良い39.2%」と50.2%の先が日本の景気は良いと感じています。反対に「やや悪い15.2%」、「悪い4.7%」、「非常に悪い0.3%」と20.2%の先が日本の景気が悪いと感じており、「良い」-「悪い」の判断D.Iは、30.0と平成18年の日本の景気は、好感感が強い見通しとなっています。



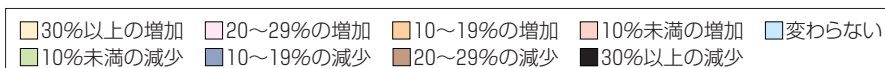
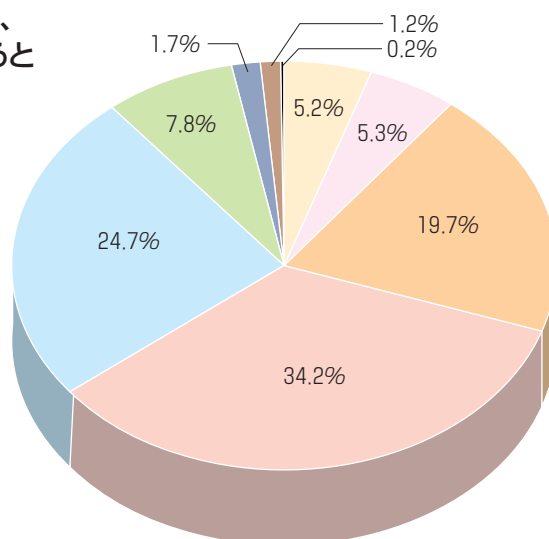
問2 平成18年の貴社の業況(景気)をどのように見通していますか。

平成18年の自社の業況については、「非常に良い1.5%」、「良い8.2%」、「やや良い32.3%」と42.0%の先が業況は良いと感じています。反対に「やや悪い13.8%」、「悪い4.0%」、「非常に悪い0.3%」と18.1%の先が悪く感じており、「良い」-「悪い」の業況判断D.Iは、23.9と平成18年の貴社の業況は、好感感が強い見通しとなっています。



問3 平成18年において貴社の売上額の伸び率は、平成17年に比べておおよそどのくらいになると見通していますか。

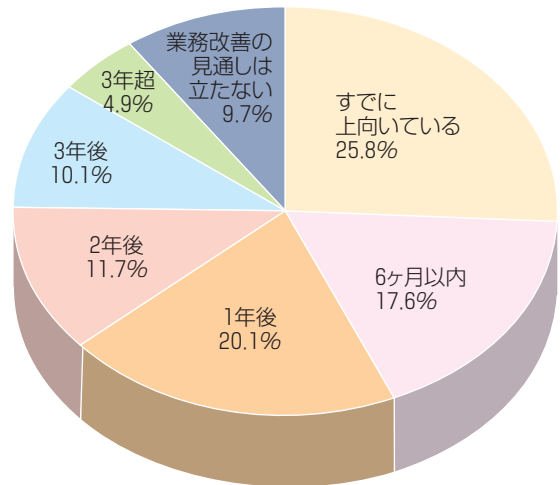
平成18年の売上の伸び率については、「10%未満の増加」が34.2%と最も高くなっています。増加と回答した先は、64.4%、減少と回答した先は、10.9%であり、「増加」-「減少」の判断D.Iは、53.5%と平成18年の売上額の伸び率は、増加傾向を強める見通しとなっています。



問4

貴社では、自社の業況が上向き転換点をいつ頃になると見通していますか。

自社の業況の転換点については、「すでに上向いている25.8%」、「6ヶ月以内17.6%」、「1年後20.1%」と1年以内に業況が上向きとした先が37.7%となり、4割弱の先は、今年が自社の業況転換点と考えており、平成18年の業況は、好調感が強まる見通しとなっています。

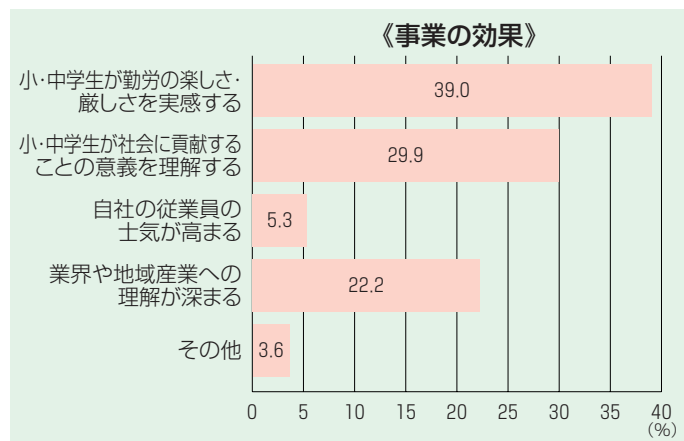


問5

若者の勤労意欲の低下が危惧される今日、一部の地域では「小・中学校による職場体験事業」が開始されています。同事業の効果として最も大きいと思われるものを下記の1～5の中から1つ選んでお答えください。

- 1.小・中学生が勤労の楽しさ・厳しさを実感する。
- 2.小・中学生が社会に貢献することの意義を理解する。
- 3.自社の従業員の士気が高まる。
- 4.業界や地域産業への理解が深まる。
- 5.その他

当該事業の効果については、「勤労の楽しさ・厳しさを実感する」が39.0%と最も高く、次いで「社会に貢献することの意義を理解する」が29.9%、「業界や地域産業への理解が深まる」が22.2%となっています。



貴社では、職場体験の要請を受け入れる意向がありますか。

職場体験の要請を受け入れる意向があるかについては、「受け入れたい気持ちはあるが、難しい」が63.6%と最も高くなっています。ただ、「すでに受け入れたことがある」が15.5%、「ぜひ受け入れたい」が5.7%と、全体の21.2%の先は、受け入れについて前向きに取り組む考えを持っています。

